

# 関西学院大学 進捗状況報告シート

## 進捗状況報告

1. ゼミナール活動の活性化として、長年、学部主催のインターゼミナール大会（ディベート大会）が行われており、2007年度は関西大学も加わってさらに活発に行われた。他のゼミナール活動の活性化や授業時間外の学習促進についても、各教員の努力によりさまざまな成果（学内外の有志ゼミとのディベートや研究発表会、学外への見学、合宿、海外大学のゼミとの交流など）を出してきている。これらをさらに活性化するためには、予算措置を含めた学部としての措置が必要と考え、学部執行部で検討されてきた。2008年度には、担当委員会で具体的な案を策定中である。
2. 授業時間中試験、小テスト、レポートの提出、質問やコメントの提出などは、各教員に任せているものの、学部事務等のサポートもあり、かなり定着してきていると言える。
3. GPA導入は、学生の習熟度を対外的に示すことができることや、履修登録しても受験しない学生が激減したことなど、一定の成果があがっていると言える。しかし、一方で、GPAを活用するためにはより一層の改善が必要な点も明らかになってきており、大学教務部に検討をお願いしている。
4. ゼミナールとコースの専門内容が一致していない学生に関しては、2008年度、コース制を手直しする段階で検討することになる。また、ゼミナールの選択化（予定）に伴い、ゼミナールを履修しない学生がこれまでよりも増えると思われるので、そのような学生に対して個別に指導する方策を検討し、2008年度内には案を策定する予定である。
5. FDについては担当委員会があり、これまでは「経済と経済学の基礎」を中心に担当教員等を集めて議論がなされてきた。2008年度は、「基礎演習」などを対象に授業見学や検討会などのFD活動を広げていく予定である。

## 学内第三者評価

ゼミ活動、講義クラス運用の改善は、順調に進んでいると認められる。  
それ以外にコース制に関連するゼミとコースとの不一致、ゼミ選択制といった学部教育の基本方針に関わると思われる項目が依然として検討課題に挙げられており、早急な対応が望まれる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。  
ゼミナール活動の活性化、きめ細かな学習指導、FD等については着実に改善が進められている。  
報告の第4点に記されたゼミナールを履修しない学生が増えることについては、十分な対応策が必要であろう。